2021
冬期募金

世界の人々と、共に生きるために
JOCSの保健医療活動にご協力ください。

JOCSは新しいいのちの誕生を
支えています（タンザニア）

MTC
JOCS
医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

タンザニアでの感染症と母子保健の取り組み

タンザニア派遣ワーカー　**雨宮春子**（助産師）

いつもお支えくださり、ありがとうございます。

7月末に、派遣先のタンザニアに再赴任することができました。2020年3月末、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大のため日本に緊急一時帰国してから、1年3カ月ぶりの赴任になります。コロナ禍で世界がまだまだ不安定な中、再赴任の道が開かれたことに感謝いたします。日本への一時帰国中、私は感染症のクラスターが発生した施設の支援に入っていました。そこで得た知識と経験も、これからの活動で生かしていきたいと思います。

私が活動するTAHO（タボラ大司教区保健事務所）傘下の医療施設では、周産期死亡率がタンザニア全体と比べて非常に高い状況にあります。JOCSは、母親と赤ちゃんが適切な産前産後、分娩時のケアを受けられるようになることを目指して「ママ・ナ・ムトトプロジェクト」を進めています。私は助産師としてこの活動に加わり、妊婦への健康教育や医療従事者に対する助産技術の研修などをおこなっていく予定です。

タンザニアも日本と同様、新型コロナウイルス感染症の拡大が心配されています。7月に赴任してわかったのは、ここでは住民だけでなく医療従事者でさえも感染症に対する正しい知識を持っていない場合が多いということ、かつ新型コロナウイルス感染症の感染拡大の現状を把握することが難しいということです。

再赴任した翌月、タボラ州内にあるTAHO傘下の医療施設を数日かけて回りました。そして感じたのは、施設によって感染対策の意識に差があるということです。マスクの着用率を見ても、ンダラ病院では職員も患者さんも9割ほどが着用していたのに対し、他の施設では職員でマスクを着用している人は約5割、私の赴任先である聖ヨハネ・パウロ2世病院にいたっては、ほぼいませんでした。不織布のマスクの着用者も少人数いますが、ほぼすべての人が布マスクです。マスクを着用していたとしても顎マスクになっている人も散見されました。手洗い場はどの施設でも設置はされていましたが、適切なタイミングでの手指消毒と手洗いは実施されていませんでした。

感染対策が一番おこなわれているように感じたンダラ病院の職員でさえも「コロナはここにはない」と言う人が多くいました。他の施設でも、大半の医療従事者が、「新型コロナウイルス感染症は都市部や観光地だけの話であり、自分たちの地域にはない」という認識を持っているようでした。

統計がしっかり取られていないことや、PCR検査が容易に実施できない状況下で確定診断が難しいことから、正確に現状を把握することはできません。しかし、ここに本当に新型コロナウイルス感染症が広がっていないのかというと、そんなことはないと思っています。

TAHO傘下のある施設を訪問した際、ひどい咳をする高齢の女性が来院しました。酸素飽和度は60%台で、新型コロナウイルス感染症の疑いありと診断されました。しかし、PCR検査やレントゲン検査が実施されなかったため、確定診断はできませんでした。診察する医療従事者はマスクの着用のみで、ゴーグルや防護服の準備はなく適切な感染対策は実施されていませんでした。この女性が仮に感染していた場合、感染拡大するリスクはとても高い状況でした。

タンザニアにも、今年7月にワクチンが到着し、無料の接種が開始されました。全国各地の大きめの病院にワクチンが配布され、ンダラ病院にも届いています。しかし、政府が以前は「ワクチンは危険だ」と発言していたこと、ワクチン接種を進める方向に方針転換したことへの詳細な説明がないこと、ワクチンの危険性についての誤った情報が流布していることなどから、ワクチンの接種を恐れている人が多く、接種率はなかなか上がりません。

母子保健の活動はもちろんですが、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐための基本的な感染対策の知識の普及に、これから取り組んでいきたいと考えています。現在の感染対策では、感染者が来院した場合、感染拡大するリスクはとても高いといえます。充分な個人防護具をそろえることは難しいですが、できるところから取り組んでいきたいと考えています。

多くの方の祈りに支えられ歩んでいくことができることに感謝いたします。タンザニアの人々の健康がまもられますように、お支えいただけますようお願い申し上げます。

ご支援くださっている方々の声

私も微力ながら参加している活動が、遠い国の方たちに喜びと力を与えていることを知り、私自身も生きていることに喜びをいただいています。
（M・M様、千葉県）

途上国における医療の向上のためには、ワーカー派遣と奨学金支援による現地での保健人材育成が欠かせないと思いますし、その継続が大切と考えます。JOCSの掲げる理想のもと、これからも活動が広がるよう願っております。
（N・O様、神奈川県）

JOCSの活動で特に大切なことは、アジア、アフリカの各地で医療従事者を育てていることです。これは真にその国のために大切な、せねばならぬことです。
（H・T様、愛媛県）

ご寄付の方法

郵便振替

ゆうちょ銀行
口座：日本キリスト教海外医療協力会
募金部 00170-3-13986

銀行振込

三井住友銀行 高田馬場支店
日本キリスト教海外医療協力会
口座番号：普通　4186361

銀行からのお振込やネットバンキングでは、JOCSには口座名義人の名前しか通知されません。ご送金の際には、お名前、ご住所、電話番号をメール（info@jocs.or.jp）またはFAX、郵送で東京事務局まで必ずお知らせください。

クレジットカード

1,000円から。
ホームページ（https://www.jocs.or.jp/support/bokin）からお手続きください。

当会へのご寄付、サポート会員の会費は、特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。

遺産のご寄付に関するパンフレットがございます。ご希望の方は東京事務局までご連絡ください。

＊当会へのご寄付、会費は8割が事業費、2割が管理費として使われます。

継続支援（ご入会）のお願い

JOCSサポーターとして、医療を通じて、世界の人々と共に生きませんか？

同封の払込票の「入会します」に☑をご記入ください。クレジットカード・口座振替をご希望のかたはJOCSホームページからお申し込みください（https://www.jocs.or.jp/support/member）。

社団法人としてのJOCSを構成する「社員会員」という制度もあります。社員会員をご希望の方は、同封の払込票の余白に「社員」とご記入ください。

※社員会員は、総会の議決権、理事の選挙権及び被選挙権を持ちます。
※社員会費は寄付金控除の対象とはなりませんので、ご了承ください。
※社員会員の名簿は「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づき、内閣府に提出します。

個人情報の取り扱いについて 当会は、皆様の個人情報を厳重に管理・保護するとともに、その取扱いにつきまして「個人情報の保護に関する法律」及び関連する法令その他の規範を遵守し、プライバシーの保護を行っています。詳しくはJOCSホームページの「プライバシーポリシー」（https://www.jocs.or.jp/privacy）をご覧ください。

JOCS役員

会　長	畑野研太郎（医師）
常務理事	大友宣（医師）
理　事	植松功（自営）　小宅泰郎（医師）　川北かおり（医師）　久保礼子（言語聴覚士）　名取智子（JOCS事務局次長）　本田まり（大学教員）　森田隆（JOCS事務局長）　柳澤理子（保健師、大学教員）
監　事	榛木恵子（団体役員）　渡部芳彦（歯科医師、大学教員）

公益社団法人 **日本キリスト教海外医療協力会**

ホームページ https://www.jocs.or.jp　E-mail info@jocs.or.jp

東京事務局　〒169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18-51 電話:03-3208-2416 FAX:03-3232-6922
関西事務局　〒530-0013　大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階 電話:06-6359-7277 FAX:06-6359-7278